

## 「防災減災にたいせつな男女共同参画の視点」



一般社団法人りとりーと代表理事 兼子 佳恵

宮城県石巻市に暮らす私たちは2011年に発生した東日本大震災を経験し、地元民による地元民のための様々な活動を行ってきました。

災害はいつ起こるかわかりませんが、怯え続けることはできません。だからこそ、災害に備え、危機感を持ちながら生活することが大切だと思います。男女共同参画の視点も踏まえて、大切にしたいことをまとめました。

### 1 役割分担に注意を

災害時には、男女という性別の違いがもとで直面する問題やニーズ（求めること）が異なる場合がたくさんあります。

例えば、いつの間にか決まってしまう役割分担により、女性は、子どもや高齢者の世話を担う（あるいは求められる）ことが多くなります。

一方、男性は、救助活動や復旧作業に多く従事する（こちら求められる）ことが多くなります。

これらの役割分担が、ともに、納得した上での分担なら良いのですが、「女だから」「男だから」で決められてしまうと大きなストレスと衝突の原因になってしまふことがあります。

ただし、男女のニーズの違いで言うと、例えば、女性は「トイレがあれば良い」のではなく、「明るくて清潔なトイレ」を求め、生理用品なども必要です。性別の違いで求めるものが違うということを覚えておいてもらえると幸いです。

### 2 みんなで意思決定を

前述したような問題が起きないようにするためには、災害が起こる前に多様な視点、つまり、性別や年齢などが異なる様々な人の視点を防災計画に取り入れておくことが必要です。

とかく地域の会合などには、男性が出席しがちで、女性や若者など、誰もが平等に「意思決定」に参加できているわけではないと思います。

女性たちが積極的に会合に参加したり、意見を伝えることで、より現実に沿った防災計画を策定することができます。

何より、そこで決められたことは、押し付けられた役割ではなく、住民一人ひとりが自分の役割を認識し、協力して災害に対応していこうとする意識が醸成されます。ひいては、地域全体の防災力も大きく向上します。

### 3 経済活動も考えて

災害が起こると、多くの方が仕事を失うことになります。中でもシングルマザーなどのひとり親世帯や高齢世帯は経済的に困窮した状態に陥りやすくなります。

災害後には、ボランティアの方々全国各地からやって来てくださることになりますが、被災して仕事を失っている人に、ボランティアが担う作業の一部を「仕事」として提供することができれば、少しでも早く平時の生活に戻れるのではないかと思います。「災害後の地域の経済活動をどうしていくか」という視点も持っていてほしいです。

私たちの場合は、性別や年齢にかかわらず、経済的な自立を取り戻すための支援プログラム（起業支援や就労に必要な知識・技術の習得支援）などを行いました。同じ境遇の人同士が励まし合いながら自立を目指す場は、復興への大きな力にもなりました。

お伝えしたいことは尽きませんが、大きく3つに絞りました。何かひとつでも、皆さんが豊かな人生を過ごすきっかけにつながれば幸いです。